

# シマウキゴリ

*Gymnogobius opperiens* Stevenson  
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

嶺南では確認されておらず、嶺北においても生息河川は限られている。南越前町を流れる河野川が日本海側での南限に当たるものと思われるが、近年はほとんど確認されていない。

## 種の特徴

全長 8 cm。第一背びれの後端に黒色斑があること、体側には腹側で輪郭が不明瞭なH状横斑が並ぶこと、尾びれ基底の黒色斑の後端は2又すること等から同じ仲間のウキゴリやスミウキゴリと区別できる。河川の中、下流域の比較的流れのある環境を好む。

## 分 布

北海道、茨城県・福井県以北の本州。本県では九頭竜川水系、越前海岸へ注ぐ小河川。

## 生息を脅かす要因

堰の敷設、護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が減少したものと考えられる。

参考文献 石野 (2001)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○									○

# クボハゼ

*Gymnogobius scrobiculatus* (Takagi)  
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

## 選定理由

本県では 2012 年、2013 年に南川のイサザ（シロウオ）漁の袋網にかかった記録があるのみで、評価するだけの情報が不足しており、その生態は不明であることから要注目とした。

## 種の特徴

全長 4 cm。河川の河口域～汽水域が主な生息場所である。体は細長く、体側に小さな点からなる横縞が多数あることが特徴。頭は縦扁し断面は台形、体後部は側扁する。上顎後端は眼の後縁を大きく越える。

## 分 布

日本固有種で本州～九州に分布。本県では南川で確認された。

## 生息を脅かす要因

今後調査が進めばさらに分布域は広がる可能性はあるが、現時点での記録は南川のみである。本種が好む河口干潟が南川に十分備わっているわけではなく、環境が悪化すれば減少は避けられない。

参考文献 瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

# タモロコ三方湖産

*Gnathopogon elongatus elongatus* (Temminck & Schlegel)  
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：地域個体群

旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

三方湖とその流入河川に生息し、特異な形態をもつ地域個体群として保護の必要性が高い。

## 種の特徴

全長 10 cm。タモロコは西南日本の広範囲に分布するが、生息環境の違いによって形態に著しい変異がある。たとえば止水域に生息するものは、河川のものに比較して、体型が細長く、縦列鱗数、脊椎骨数が多い等の特徴を持つことが知られており、三方湖産のタモロコはその典型とされている。

## 分 布

三方湖とその流入河川に生息する。

## 生息を脅かす要因

三方湖は、水質汚濁や湖岸では魚類等多様な生きもののすみかとなる植生帯が激減し、さらには、オオクチバスやブルーギル等の外来生物の増加による食害によって生息が脅かされている。

参考文献 細谷和海 (1987)、福井県海浜自然センター (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																